

研究タイトル：

明治期庶民の旅行に関する研究



氏名： 原 遼平／HARA Ryohei E-mail： r-hara@yonago-k.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 歴史地理学会，人文地理学会，歴史人類学会

キーワード： 歴史地理学，旅行文化，寺社参詣，場所認識

 技術相談
 提供可能技術： 人文地理および日本近代史に関する基礎知識
 地域・郷土調査手法に関する基礎知識
 古文書資料の取り扱い・解読

研究内容：

日本において現在のような観光を主目的とするツーリズムが成立したのは近代期であるとされています。従来の近代期旅行に関する研究は主に大正期から昭和戦前期を対象に旅行案内書や観光地の振興策が検討されてきました。一方で、案内書や観光地側の目論見通りに旅行者が行動していたとは限りません。また、近世期から大正期の間に位置し、旅行の実態に関して大きな変化があったと推察される明治期についても、詳細に分析されていませんでした。

上記の課題を解決するため、これまでの研究では実際に庶民が実施した旅行に焦点をあて、案内書の内容などと比較することで当時の旅行の実態を明らかにしてきました。現在は実施された旅行が案内書以外の媒体(例えば旅行先での他者との交流や旅行者の親戚や集落の知人といった既に旅行を実施した人々からの経験の伝搬等が挙げられます)からどの程度影響を受けていたのか、また旅行の行程以外に場所認識(観光地をどのように認識していたのか)にも影響を与えていたのかについて検討しています。それに加えて、旅行文化の地域的な差異についても全国を対象として分析を続けています。

最近では上記テーマ以外に地域の人々が様々な施策を通して都市を発展させていく過程にも関心を持っています。

担当科目	地理，経営学概論Ⅰ，経営学概論Ⅱ，人文社会特論
過去の実績	・原 遼平・中西僚太郎「日記資料等からみた堀田廣之の旅行」日本学術振興会科学研究費補助金 生活環境班研究成果報告書「大正・昭和期における住宅関連産業の展開と「暮らし」の変容に関する総合的研究」，53-67 頁，2023 年 ・原 遼平「明治期近畿地方からの東京方面への旅行」第 262 回歴史地理学会例会，日本大学経済学部，2023 年 3 月 ・原 遼平「近代期加賀温泉郷に対する地域認識—旅行案内・紀行文と旅日記からみた—」第 258 回歴史地理学会例会，明治大学駿河台キャンパス，2021 年 12 月 ・原 遼平「明治中後期の茨城県における地主層の旅行」第 64 回歴史地理学会大会，オンライン開催，2021 年 ・原 遼平「旅日記に見る明治期地主層の瀬戸内海の景観認識 —明治 34 年中国・九州・四国旅行を事例に—」2020 年人文地理学会大会，オンライン開催，2020 年
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	・原 遼平・姜 昕玥・韓 暄・坂口 豪・清水克志「商都小樽の形成と変容 —大正期から昭和期にかけての小樽市中心部を事例に—」歴史地理学野外研究 21 号，1-35 頁，2024。 ・原 遼平「明治後期の資産家層が見た瀬戸内海の風景—明治 34 年西日本旅行を事例に—」人文地理 74-1，27-45 頁，2022。 ・原 遼平・三宅彦大・中西僚太郎「近現代の茨城県新治郡旧斗利出村沢辺地区における生活と信仰」歴史地理学野外研究 20 号，1-23 頁，2022。 ・原 遼平・三宅彦大・伊藤智比古・齊藤隆之介「近代期小樽における市民が目指した都市像 —教育・交通インフラの整備に着目して—」歴史地理学野外研究 20 号，25-58 頁，2022。 ・原 遼平「昭和一五年度の宿帳に見る戦時期の出雲大社参詣」史境 77・78，93-110 頁，2019。